

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和元年度 10 月

○ 概要

(1) 令和元年 10 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,510 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同じ。）+0.2%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,097 円（伸び率+4.2%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,694 億円（伸び率▲0.9%）、薬剤料が 4,805 億円（伸び率+0.6%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 888 億円（伸び率▲1.5%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,434 円（伸び率+4.3%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.84 種類（伸び率 0.0%）、24.6 日（伸び率+4.2%）、78 円（伸び率+0.1%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬の薬剤料 3,889 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+12 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 687 億円（伸び幅▲16 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+62 億円（総額 382 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,889 億円 (+12 億円)	11 中枢神経系用薬 (687 億円)	21 循環器官用薬 (683 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(632 億円)
0 歳以上 5 歳未満	27.3 億円 (▲4.6 億円)	44 アレルギー用薬 (11.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.9 億円)	61 抗生物質製剤 (4.8 億円)
5 歳以上 15 歳未満	83.6 億円 (▲5.0 億円)	44 アレルギー用薬 (30.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (22.0 億円)	61 抗生物質製剤 (7.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,344 億円 (▲1 億円)	11 中枢神経系用薬 (294 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(236 億円)	21 循環器官用薬 (204 億円)
65 歳以上 75 歳未満	923 億円 (▲9 億円)	21 循環器官用薬 (190 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(182 億円)	42 腫瘍用薬 (122 億円)
75 歳以上	1,511 億円 (+31 億円)	21 循環器官用薬 (285 億円)	11 中枢神経系用薬 (258 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(208 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,097 円（伸び率+4.2%）で、最も高かったのは高知県（10,923 円（伸び率+6.8%））、最も低かったのは佐賀県（7,639 円（伸び率+2.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+6.8%）、最も低かったのは山梨県（伸び率+1.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	79.1 %	+3.1 %
薬剤料ベース	18.5 %	▲0.4 %
後発品調剤率	75.7 %	+2.2 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.2 %	+2.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.5%	+7.6% (25 歳以上 30 歳未満)	▲10.6% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.5%	23.3% (0 歳以上 5 歳未満)	13.5% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	79.1%	81.7% (60 歳以上 65 歳未満)	72.0% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	776 億円 (▲21 億円)	21 循環器官用薬 (235 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)	11 中枢神経系用薬 (102 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.2 億円 (▲0.8 億円)	44 アレルギー用薬 (3.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.7 億円 (▲0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (8.9 億円)	61 抗生物質製剤 (2.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	264 億円 (▲4 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (49 億円)	23 消化器官用薬 (31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	186 億円 (▲11 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(20 億円)
75 歳以上	300 億円 (▲4 億円)	21 循環器官用薬 (98 億円)	23 消化器官用薬 (52 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,241 円	1,604 円(北海道)	1,042 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.4 %	+4.9 % (東京都)	▲1.4% (福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	79.1 %	87.8 % (沖縄県)	72.4 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.5 %	21.9 % (鹿児島県)	16.2 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	75.7 %	82.5 % (沖縄県)	70.7 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.2 %	63.6 % (沖縄県)	50.8 % (徳島県)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和元年10月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。